

(お知らせ)



平成21年 6月12日
日本原子力発電株式会社

プルサーマル計画の見直しについて

電気事業連合会は、本日、別添のとおり「プルサーマル計画の見直しについて」を公表しましたのでお知らせします。

＜プルサーマル実施に向けた東海第二発電所の状況＞

東海第二発電所のプルサーマル計画については、上記「プルサーマル計画の見直しについて」と耐震安全性の評価を踏まえ、地域の皆様のご理解を得られるよう努力しながら取り組んでまいります。

以 上

添付資料

プルサーマル計画の見直しについて（電気事業連合会公表資料）

プルサーマル計画の見直しについて

2009 年 6 月 12 日

電 気 事 業 連 合 会

電力 9 社（除く沖縄電力）と日本原子力発電、電源開発の 11 社は、プルサーマル計画実現を経営の重要課題と位置づけ、2010 年度までに全国で 16～18 基の原子炉への導入を目指し、鋭意取り組んでおります。

その結果、本年 5 月に中部電力・四国電力・九州電力 3 社が MOX 燃料輸送を完了したほか、他の電力各社においても地元への申し入れや燃料加工契約を締結するなど着実に進展いたしております。一方、本年 4 月には、日本原燃が MOX 燃料加工工場の操業開始時期を変更いたしております。

そうしたなかで、本年 6 月に原子力委員会委員長から、プルトニウム利用の透明性を確保する観点から、計画の見直しについてご意見いただきました。

こうした状況変化を踏まえ、本日、各社社長で構成する「プルサーマル推進連絡協議会」を開き、別紙のとおりプルサーマル計画を見直すとともに、導入に向けて引き続き業界を挙げて取り組んでまいることが決議いたしました。

資源の乏しいわが国において、将来にわたりエネルギーを安定的に確保していくためには、国内における原子燃料サイクルの確立は不可欠であり、プルサーマルの重要性は変わるものではありません。

私ども電力 11 社は、利用目的のないプルトニウムを持たないという国策のもと、国内外で回収されるプルトニウムを利用するために、引き続きプルサーマルをできるだけ早く導入することとし、遅くとも MOX 燃料加工工場が操業開始する 2015 年度までに、全国の 16～18 基の原子炉でプルサーマルの導入を目指してまいります。

以 上

＜見直し後のプルサーマル計画＞

国内における原子燃料サイクルの確立は不可欠であり、海外で回収されたプルトニウムを含めてプルサーマルの重要性は変わるものではない。各社は、引き続きプルサーマルをできるだけ早く導入することとし、遅くとも MOX 燃料加工工場が操業開始する 2015 年度までに、全国の 16～18 基の原子炉でプルサーマルの導入を目指す。

電力	導入基数	導入場所	備考
北海道	1 基	泊発電所 3 号機	安全協定に基づく事前了解済 原子炉設置変更許可申請中
東北	1 基	女川原子力発電所 3 号機	原子炉設置変更許可申請中
東京	3～4 基	東京電力の原子力発電所の 3～4 基	立地地域の皆さまからの信頼 回復に努めることを基本とする
中部	1 基	浜岡原子力発電所 4 号機	2010 年度から導入予定
北陸	1 基	志賀原子力発電所	地域の皆さまの信頼・安心の 獲得に取り組む中
関西	3～4 基	高浜発電所 3、4 号機 大飯発電所 1～2 基	高浜発電所については 2010 年度から導入予定
中国	1 基	島根原子力発電所 2 号機	安全協定に基づく事前了解済 原子炉設置変更許可取得済
四国	1 基	伊方発電所 3 号機	2010 年度までに導入予定
九州	1 基	玄海原子力発電所 3 号機	2010 年度までに導入予定
日本原電	2 基	敦賀発電所 2 号機 東海第二発電所	地域の皆さまのご理解を得ら れるよう取り組んでいく
電源開発	1 基	大間原子力発電所	2013 年度から導入予定
合計	16～18 基	—	—